

庭

太陽はどこかで照らしてゐる

彼の顔には血の気がない
蒼ざめてゐる
耳の下が時々びくびくする
歩幅をひろく
長いズボンがいそぐ
すべてのものが生き生きと彼をむかへてゐる
右を見る彼の目は すでに
左を見てゐるし さらに
もう一度 右を見かへしてゐる
指を上衣のボタンの穴につきさしたまま
彼は自分自身を迷路につつまむ

彼は夜が好きだ
石燈籠の中からの白い光がゆれる
のぞくのだ
羊歯の葉の割れ目から
水がほそぼそと流れてゐるのを
深い所からは
音だけがしづかに同じ調子をくりかへしてゐる
彼はのぞくのが好きだ
ひろげきつてゐるものをのぞくのが好きだ
暗いかすかな中のしづかな黒い色
羊歯の葉の一枚がしきりにゆれてゐるのは
風が吹いてゐるからではない

待ちくたびれてゐる石
彼を石が待つてゐるのである
待つてゐる石

押へつけられてうれしがつてゐる石

ちがふわよ あなただけにだわよ

急にかみつく
穴だらけの石の肩のあたりに歯形をつける

鳥はだの上に齒形の影が出来る
両方がよろこんで笑ふ

時には二つの石
時には三つ 四つ 抱きしめたい
何と言つても 彼はうしろから
抱きしめる しつかりと 抱く
乱れた髪 横長のお尻 白くて長い背中がくねる
君 耳をかしてごらん
なんでせう
あら うそだわよ あなたは きっと
誰にでも かうなのだわよ

彼は素直にならうと思ふ
彼は順路にしたがはうと思ふ
道のすぐ向ふ側にさつき来た道がある
あぶない話である
うまく逃げるのだ
追ひつかれないやうに逃げるのだ
向ふ側の道を ぞろぞろ ぞろぞろ
人間がひしめいてやつて来る
見ると
彼のしたやうに のぞいてゐる
彼のしたやうに 抱いてゐる

お尻めがけて発射する
お尻めがけてつばをかける
お尻めがけてズボンをぬぐ
お尻を見る

誰の頭の中にも庭はすぐに出来上る
庭は観念のものだ
しかし 同じやうに 彼も 彼の見た彼等も
庭にとっては観念のものだ

垣根を外してごらん
築山を崩してごらん
古木を無くしてごらん
上から見てごらん
太陽から見たら茶番劇であらう

昔は滝の音ばかりが
昼なほ暗いこのあたりにとどろいてをりました
茂りあふ木立を透かして
やがて下り坂の彼方に
池が光つてゐます
池の所の広庭には二十三本の紅葉の木
一本だけ そのほかに あまのじやくの紅葉の木があります
そいつは春と夏と冬とに黄葉します
秋になると緑色になるのですよ
本ものの紅葉が口惜しがる
池の上に影をうつす時には
目立つのはいつもそれなのです
秀才であります
一枚岩から拍手のさざ波が贈られます
一枚岩は鳥のくそで白髪 of 老人のやうに見えます

ぎやあお ぎやあお
木の葉のゆれる嵐の夜には
こんな具合には鳥は鳴かない
くちびるをみにくく大きくひらいてゐる女のまぼろし
彼が自分の親指で
自分のくちびるをひろげて
よだれをたれさせる
彼は知つてゐる
月夜には
池の中の月は
もつとも静かであることを
彼も 母親のあそこの思ひ出を
ゆつくりとたどることが出来るのを
彼は太陽を避けるのだ
池の中には血の一点
それが アドバルーンであつた時
どんなに がっかりしたことか
ぎやあお ぎやあお
ぎやあお ぎやあお

飛び石のあひだの水がゆれる
おつと 彼は立ちどまる
芸者が飛び石を飛びこした

おたく なかなかのお兄さんね
飛び石が見上げてびつくりしてゐた

胸にカメラをぶらさげた毛唐が言った
l a r g e !
づかづか芝生の中を歩いて行く

女学生が五人すれちがふ
カバンをスカートの丁度前にぶら下げてゐる
あんまりえらさうな顔をして歩いてゐるんですもの
その中の一人の美しい声が言ふ
おじぎをしさうになつちやつた
毛唐はうしろをふりむいた

堂は焼けてしまつて台石だけ
台石の穴に空がうつつてゐる
馬小屋も焼けてしまつて焼けぼつ杭

山頂の石に坐つて
女が彼を待つてゐた
あなた 来たわよ でも平気
刑事はよく知つてゐるんですもの
ふと 彼は眉をしかめた
お前はその刑事ともしたんだな
蓄生 何度もしたんだらう
俺にはさはらせるだけなのに
何を言つてんのよ
汗ばんだ細い指が彼の指にしつかりとからみつく
女は彼ばかりのものではない
小さいくちびると歯と舌とが
盗みのたのしさを思ひ出させた
逃げられるさ
山頂の木立にかこまれてゐる石の上で
彼は女を抱きしめた
木もれ日が
消しゴムのやうに
彼等の上をゆれまはる
彼の思ひと
女の肌とを
しつつこく くりかへして

消してしまひたがつて ゆれまはる
白い木もれ日が
彼と女をなせてゐる

便所の落書ははつきり描かれてゐる
駅の便所と同じやうな描き方である
男のものは 男のものらしく
女の場合は 女のものらしく
ふれると ぬくぬくと 脈うつてゐる

彼は逃げた
彼は消えた

太陽を忘れてはならない
ところが よく 忘れるものだ